

お遊戯会、個人面談が終わり、今年も終わりが近づいてきました。今年、コロナとインフルエンザの同時流行の恐れが常にありました。当園では、12月は、インフルエンザの罹患よりも、風邪での高熱、胃腸炎で欠席するお子様が多いです。園で嘔吐した場合は、ノロ・ロタウイルスによる感染症の場合もあります。発熱がなくてもお迎えをお願いしておりますので、ご協力よろしくお願いたします。寒い時期を迎えますので、どうぞお体をおいといいただきよい年をお迎えください。

## 引き取り訓練ご協力ありがとうございました



おうちの方は、大きな声でお子様の名前を読んでくださり、手をつないで、上履きでの降園もスムーズにいただきました。平成23年3月11日東日本大震災の折には、帰宅途中に2次災害に巻き込まれないように防災頭巾も被って帰っていただきました。

お子様方は、一方の手は口にハンカチを当て、もう片方の手で手すりをつかみ、階段を降りホールで待つことができました。保育者の話も静かに聞き、泣かずに待つことができたことは、日頃の練習の賜物でした。引き取り訓練の意味を話してくださるお家もあり、お子様方が真剣に取り組めたことをたくさん誉めました。

## 「ごめんね」「いいよ、もうしないでね」・・・だけでは伝わらない！

園生活では、「自分が嫌なことは人にしない」ことを折に触れ伝えますが、「ごめんなさい」と友だちに伝える場面もよくあります。この時、「ごめんなさい」と言われたAさんが、瞬時に「いいよ」と応えます。それも大切ですが、保育者は、「いやだった気持ちをBさんに伝えられるといいね」と話します。

何が嫌だったのかを友だちにわかるように「言葉」で伝えることは、年長児でも難しいものです。しかし、保育者がお子様を促すと、もう一度、何が自分にとって嫌だったのかを考え始めます。Aさんは、「遊ばない…って…言われた…の…嫌だった」と言葉を探しながらBさんに伝えました。Bさんは、「…だって、〇〇やってたんだもん…ごめんね」と伝えました。

自分の嫌だった理由を相手に伝えることができた上で、自分と遊ばなかった理由がわかると、Aさんに心の余裕が生まれるのでしょうか。保育者がAさんに「どうする?」と聞くと、「じゃあ、また遊ぼうね」とちょっと口をとがらせながらBさんに気持ちを伝えることができました。伝え合える仲間となるこの時期だからこそその貴重な経験です。



何を分けてもらっているんでしょう



まだまだおゆうぎ会の熱気は冷めません…



年長さんが踊りだすとつられて踊りだします